

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 サービス業が横ばい、製造業・建設業・卸売業・小売業が悪化。

来期予測は製造業・建設業・サービス業が横ばい、卸売業・小売業が悪化を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲16.0	↘	▲33.3 (▲18.2)	→	▲33.3
建設業	4.6	↘	▲8.7 (7.4)	→	▲13.0
卸売業	▲11.7	↘	▲22.2 (▲14.3)	↘	▲47.0
小売業	▲14.3	↘	▲33.4 (▲25.0)	↘	▲41.7
サービス業	▲17.6	→	▲16.7 (9.1)	→	▲16.7
全産業	▲10.6	↘	▲22.4 (▲7.6)	↘	▲28.3

〔売上高のDI〕 サービス業が改善、小売業が横ばい、製造業・建設業・卸売業が悪化。

来期予測は製造業・小売業が改善、建設業が横ばい、卸売業・サービス業が悪化を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲4.0	↘	▲23.3 (▲21.2)	↗	▲6.6
建設業	4.5	↘	▲13.0 (▲7.4)	→	▲17.4
卸売業	11.8	↘	5.5 (0.0)	↘	▲38.9
小売業	▲14.3	→	▲16.7 (0.0)	↗	▲8.3
サービス業	▲11.8	↗	16.6 (18.2)	↘	0.0
全産業	▲2.1	→	▲6.5 (▲4.2)	↘	▲13.1

〔採算のDI〕 サービス業が横ばい、製造業・建設業・卸売業・小売業が悪化。

来期予測は小売業が改善、製造業・建設業が横ばい、卸売業・サービス業が悪化を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲24.0	↘	▲40.0 (▲21.2)	→	▲40.0
建設業	9.1	↘	▲26.1 (▲25.9)	→	▲26.1
卸売業	▲29.4	↘	▲38.8 (▲9.5)	↘	▲50.0
小売業	▲23.1	↘	▲41.7 (▲26.7)	↗	▲16.6
サービス業	▲11.8	→	▲12.5 (▲13.6)	↘	▲20.8
全産業	▲14.9	↘	▲30.8 (▲19.5)	→	▲31.8

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製造業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙・紙加工』…「イラン情勢次第により大きく変動すると思うが、総じて芳しくない」「業界としては常に安定性が高く、堅調な需要が継続している。原油高騰によりプラスチック容器から紙容器への転換が期待される」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「非常に不透明である」「イランによるホルムズ海峡閉鎖による報道から、ストックを考える方や店舗が増え始めている印象があり、一時的な需要過多になる可能性が考えられる。原油高騰による原材料の値上がり、輸出コストの増加等、先行が見通せない状況が予想される」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「自動車用金型は、厳しい状況だと思う。絶対数の減少で、末端まで仕事がいきわたらない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「少しずつではあるが、自動車金型部品の加工依頼が増えてきている」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…「自動車産業の不振により、裾野の関連企業の業績悪化。生産設備の設備投資の鈍化により、受注減の状況が続いている。自動車部品・工作機械部品等については、今期は昨年と大きな変化はない。来期は増加すると思われるが、ペルシャ湾諸国の動向により、原油価格が高騰しエネルギー費や石油化学製品価格も上昇すると思われる。このため利益を圧迫する可能性が大きい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「海外での戦争の影響がどこまで続くかわからない」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「仕事量の減少が解消され、平常通りとなった」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「協力企業が相次いで二社閉鎖となり、今後、仕事量の増加が見込まれると思う」とのコメントが寄せられた。

『食料品・飲料』…「販売価格の上昇により販売数が下落している。引き合いが増加しているが、全て价格的に厳しい仕事である。大企業は潤っているように見えるが、我々中小はまだまだ厳しい状況は続くと感じる。物価高騰につき、前年同期に比べ需要が少なくなっている」「茶業界は抹茶一色である。弊社も今春抹茶の原料である碾茶生産工場に碾茶用火入機を納品する予定である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「原材料や経費などの価格上昇と人件費の上昇により、厳しい状況が続いていくと思われ、価格改定をせざるを得ない状況になっていくと思われる」とのコメントが寄せられた。

『製材』…「材料の値上がりが予想されている」とのコメントが寄せられた。

『衣料』…「改正下請法（中小受託取引適正化法）の施行や運用見直しに伴い、一部の取引先において支払サイトが従来の120日から20日にまで大幅に短縮される見込みとなり、資金繰りの劇的な改善が期待される。しかしながら、中東地域における紛争の長期化に伴う円安の進行および原材料価格の上昇が続いており、引き続き収益面への影響が懸念される状況にある」とのコメントが寄せられた。

『繊維加工』…「廃業する同業者、仕入業者が増えて困っている。EV関連の需要は完全に無くなり、他の分野の需要も弱含みである」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「イラン・アメリカ、イスラエルの戦争により、原材料価格の高騰が予想されるが、それに対し製品の価格改正が追いつかないのではないかとと思われる」とのコメントが寄せられた。

『電子機器』・・・「業務前自動点呼の運用解禁および製品サイクルに伴う買い替え需要により、当社のアルコール検知器をはじめとする自動点呼製品や非接触体温計などの販売が好調である。今後の見通しについては、新製品の開発により売上を維持できる予想であるものの、イラン情勢の影響から製品ケースなどの生産に影響が出る可能性がある」とのコメントが寄せられた。

『その他』・・・「九州（鹿児島）が茶の大半を抹茶原料に向けたと言われる。そのため煎茶も不足し、県内も秋番茶が高騰した」「以前から取り組んでいた、医療関係の仕事の受注が増えてきた」「廃業した近くの工場の跡地にクスリのアオキが進出するようである」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	10.0	46.7	43.3	▲33.3	横ばい
売上高	16.7	43.3	40.0	▲23.3	上 昇
採 算	13.3	33.3	53.3	▲40.0	横ばい

【建設業】 景気ムード…【低調】

『総合建設』・・・「ウクライナや中東情勢、トランプ関税の影響により先行き不安な状況が続いている。企業の設備投資には警戒感が強まっており、投資の鈍化による過当競争も継続している」「建設業界全体では施工面積は増加していないが、物価高の影響で売上は増加しており景気は底堅い。しかし、資材価格の高騰や深刻な人手不足により工事価格が上昇しており、受注環境は維持されているものの収益面では厳しい状況が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「イラン紛争が長引けば資機材や燃料の値上げが深刻化し、工事受注の減少が加速する」「中東情勢を受けた物価上昇への懸念から、案件によって着手と様子見の二極化が発生している。エネルギー価格の高騰が物流や原価に波及し、利益が圧迫されることが心配である。一方で公共投資や都市再開発により建設需要自体は当面堅調に推移すると見込まれるため、人手不足への対応として DX や施工効率化による生産性向上が求められている」とのコメントが寄せられた。

『一般住宅関連』・・・「需要の低迷による厳しさが増している。イラン問題により仕入資材の高騰が見込まれ非常に厳しい環境になると思われる。住宅の価格が高騰し、土地から購入して新築という予算がなかなかとれない現状で、先行きが不透明である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「営業上の工夫がさら求められる。物価がどこまで上がっていくのか、採算がとれるか心配される」とのコメントが寄せられた。

『建設車両等賃貸業』・・・「高市政権誕生後、明るいムードの中、全体の需要も悪化せず、好転とまでは言い難いが、底堅い需要の中で前年以上の売上で推移してきた。ただ、売上単位の値上げは厳しく、収益面での課題が残っている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「イラン問題で一気に不透明になってしまった。特に石油に伴うコスト上昇で、収益面はまったく読めない」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』・・・「公共工事の減少。材料の値上げが続いていて収益に影響してきている。材料等の仕入れ価格の高騰、人件費の高騰が続きそうである。これによる請負金額も値上げせざるを得ない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「良くなるとは思えない。中東情勢も影響して先が見えなくなっている。仕入れ価格の高騰により、ユー

ザーの設備投資が見送りになると思う。過当競争と競争力の低下で、見通しは厳しい」とのコメントが寄せられた。

『造園土木工事』・・・「草刈りや樹木の剪定には少し早いので、時間に余裕がある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「特に目新しいものはみあたらない。公共工事の発注に期待」とのコメントが寄せられた。

『土木関連』・・・「組織能力不足」とのコメントが寄せられた。

『その他』・・・「燃料費、宿泊費の高騰はしばらく続くと思う」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	8.7	73.9	17.4	▲ 8.7	横ばい
売上高	17.4	52.2	30.4	▲13.0	横ばい
採 算	4.3	65.2	30.4	▲26.1	横ばい

【卸 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『機械器具』・・・「全ての仕入価格が上昇していて100%販売価格に上乗せすることが難しい状況である。より一層、省力・省人・省エネ製品の提案をし、お客様のメリットに繋がるようにすることが責務と考える」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「イラン情勢によりコストが大幅に増加するため景気は後退してしまうのでは、と心配している。とは言え、4月から賃上げを予定しており、ますます経営環境は厳しくなる」とのコメントが寄せられた。

『金属部品』・・・「コロナ禍終息以降緩やかに上昇を続けていたが、今期辺りがピークと思われる。決算月による違いもあるが、3月決算企業の業績はこれまでの流れに乗って、さほど悪くない業績と予想している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「景気動向はピークを越えたと考えており、緩やかに降下する見込みであったが、中東情勢が唐突に悪化したことで降下速度が加速すると思われる。売手市場であった新卒採用も変化が見え始めており、来期は各企業が近年成長を目標にしたスタンスから守りに転じる起点になるのではないかと」のコメントが寄せられた。

『建築材料』・・・「2025年4月に建築基準法改定により、確認申請が遅れたため、住居着工が減少した」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「イラン情勢により全ての材料が値上がりすることにより、住宅投資は大幅減になる見通しである」とのコメントが寄せられた。

『工業薬品』・・・「期末で多少の需要増があった。原料の高騰が進んでいる。米・イランの影響で、溶剤系の商品の入荷が滞り始めている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「中東情勢に全てがかかっていると思う。先行きが不透明である」とのコメントが寄せられた。

『再生資源』・・・「鉄スクラップは国内より輸出が良く、ドル建て取引のため、円安と品薄感で価格上昇した。非鉄スクラップは昨今の貴金属相場の頭打ちから下落になり、国際商品のために価格下落になっている。それと原油問題が足を引っ張り、下落になる。金属スクラップ発生が少ない。業界での競争仕入れが活発。中東情勢緊迫によりエネルギー価格の上昇

で収益が圧迫されている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「円相場が中東情勢と原油価格に振り回され有事のドル買いになり、貿易赤字拡大の懸念から原油高と円安が退いていく。特に鉄スクラップ価格は、昨年後半より大幅高となり、鉄鋼製品価格の値上げが続いている」とのコメントが寄せられた。

『紙』・・・「原油高による日本経済への悪影響がどの程度なのか懸念される」とのコメントが寄せられた。

『食品』・・・「業界は飽和状態にあり、グループ化が進んでいく」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「地方から首都圏中心の大手企業によって再編していくと思われる」とのコメントが寄せられた。

『製紙原料』・・・「海外品が円安に関係なく世界情勢の不況感で在庫が多い」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「商品の付加価値を高めることで、企業間格差は益々広がるだろう」とのコメントが寄せられた。

『包装資材』・・・「イラン情勢の影響でフィルム関係の製品が輸入しづらくなっている。また価格も高くなってきている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「戦争がおちつくまでは品物が入荷しにくい状況である。過当競争がおきると思う」とのコメントが寄せられた。

『その他』・・・「過度な補助金、無償化、減税等によって企業も個人も『おねだり』ばかりで弱体化しているように見える。選挙のために政治が大衆迎合に走り、税収を自ら手放し、更に国債に依存する財政では、いずれ国が破綻する。国の失策による物価上昇なのにその対策を企業の賃上げに押し付けないでいただきたい」「戦争の影響が色々な業界に出てきそうである」「合併による撤退、閉鎖により企業の減少。大手の春闘満額回答のしわ寄せが中小企業に対してどのような影響を及ぼすのだろうか」「円安、ドル高が進み、輸出向け鉄スクラップの上昇が国内相場にも波及している」「紙の多様化技術が AI の進化により新たな需要の方向へ向かっている」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	11.1	55.6	33.3	▲22.2	下 降
売上高	33.3	38.9	27.8	5.5	下 降
採 算	5.6	50.0	44.4	▲38.8	下 降

【小 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『衣料品』・・・「原油価格高騰の煽りで仕入れ値の価格が上がる。大手チェーン・デパート共に撤退する会社が多く、実需が極端に減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「急激なインフレが怖い。生産現場で商品が上がって来ないので、売れる品も不足している」とのコメントが寄せられた。

『家電』・・・「電器製品は省エネ家電が進歩して、冷蔵庫等も AI により省エネ運動を実施している。商組合の結果により量販店や通販へ顧客流出防止の一つとなっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「住宅省エネキャンペーンの導入により

【サービス業】 景気ムード…【厳しい状況】

『クリーニング』・・・「新規顧客獲得数より既存客解約数が上回っている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「イラン情勢により燃料価格の高騰および安定供給に影響が出ている」とのコメントが寄せられた。

『飲食』・・・「悪いニュースばかりで、緊縮した気持ちがこの先も変わらない様子である。再開工事、解体工事が始まったが、工事関係者の来店はまだ少なく、今後を期待している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「良くなる見込みが全く想像できない。来年創業100年を迎えるので、それに向けて色んなことをやっていきたい」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』・・・「運送業は仕事が安定してある。倉庫業は昨年と比べると在庫数が減り売上も減少したが、荷物は営業すればあるので、安定すると考えている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「中東戦争によりガソリン価格の上昇が今後利益に影響する」とのコメントが寄せられた。

『屋外広告・イベント』・・・「円安・原油高に起因する石油製品の値上げ、在庫不足。従業員をひきとめておくための賃上げが経営を圧迫している」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』・・・「インバウンドはまだ続きそうな気配なため、大幅な需要減はなさそうだが、あらゆる物価が上昇する中、適正な金額で価格転嫁しないと客離れが起きる懸念がある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「常識の範囲内で価格転嫁させないといけませんが、それにも限界がある。セブンイレブンのコーヒーが130円程度で売っている中、流石に1杯1000円まではいけない。全体的に値上げの中、価格設定が難しくなっていくと思う」とのコメントが寄せられた。

『広告デザイン』・・・「政情の不安定な時期が長引く予想である。日本の物価高が長引きそうである」とのコメントが寄せられた。

『自動車』・・・「人口減少による予算カットならびにコロナ以降の団体利用減少に伴い、需要が下降してきている。まだまだこれからも減少傾向は変わらないと思う」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「需要の低迷、物価の高騰、人材不足等により経営は厳しさを増していくと感じている」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』・・・「自動車メーカーの生産が安定すれば、特に問題はない。イラン戦争の長期化の懸念があり、気を休められない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「戦争の早期終結を願う。燃料費の不安定による景気の冷え込みの見通しが厳しい」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』・・・「過当競争である。諸物価高騰の影響やイラン情勢などで先行き不透明な中で中小零細業者は、人手不足の問題もあり、苦境に立たされている。特に賃上げの問題は大きく経営を圧迫している。このような状況下で我々業界は、小規模事業者を相手としているので、業況は厳しい。人手不足は変わらず、大幅に業況を改善するのはなかなか難しい環境にある。税制改正への対応が必要である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「今後も人手不足の中、賃金の上昇により新入社員の給与ベースに合わせ、現在の従業員の給料も検討せざるを得ず、諸物価高騰の中、厳しい状況は継続する。あまり変わらない。二極化が進む」とのコメントが寄せられた。

『葬祭業』・・・「富士市内に大手が進出して、地元企業が苦しくなってくる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「大手進出により、価格競争が激化してくる」とのコメントが寄せられた。

『不動産』・・・「宅地分譲販売については、需要者の先細りに加え、造成費用の高騰が相合わさり、厳しい状況が続いている」「物価高騰により、建設資材の値上がりが止まらない。住宅建設コストが高くなることで、土地代を下げて欲しいとの要望が多い。事業内容が土地のみの扱いは収益がマイナスとなる状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「需要者の先細り、造成費用の高騰は今後も改善は期待できず、宅地分譲販売は今後も厳しい状況が続くと思われる。イラン問題もあり、物価高騰は収まりそうもなく、不安材料である」とのコメントが寄せられた。

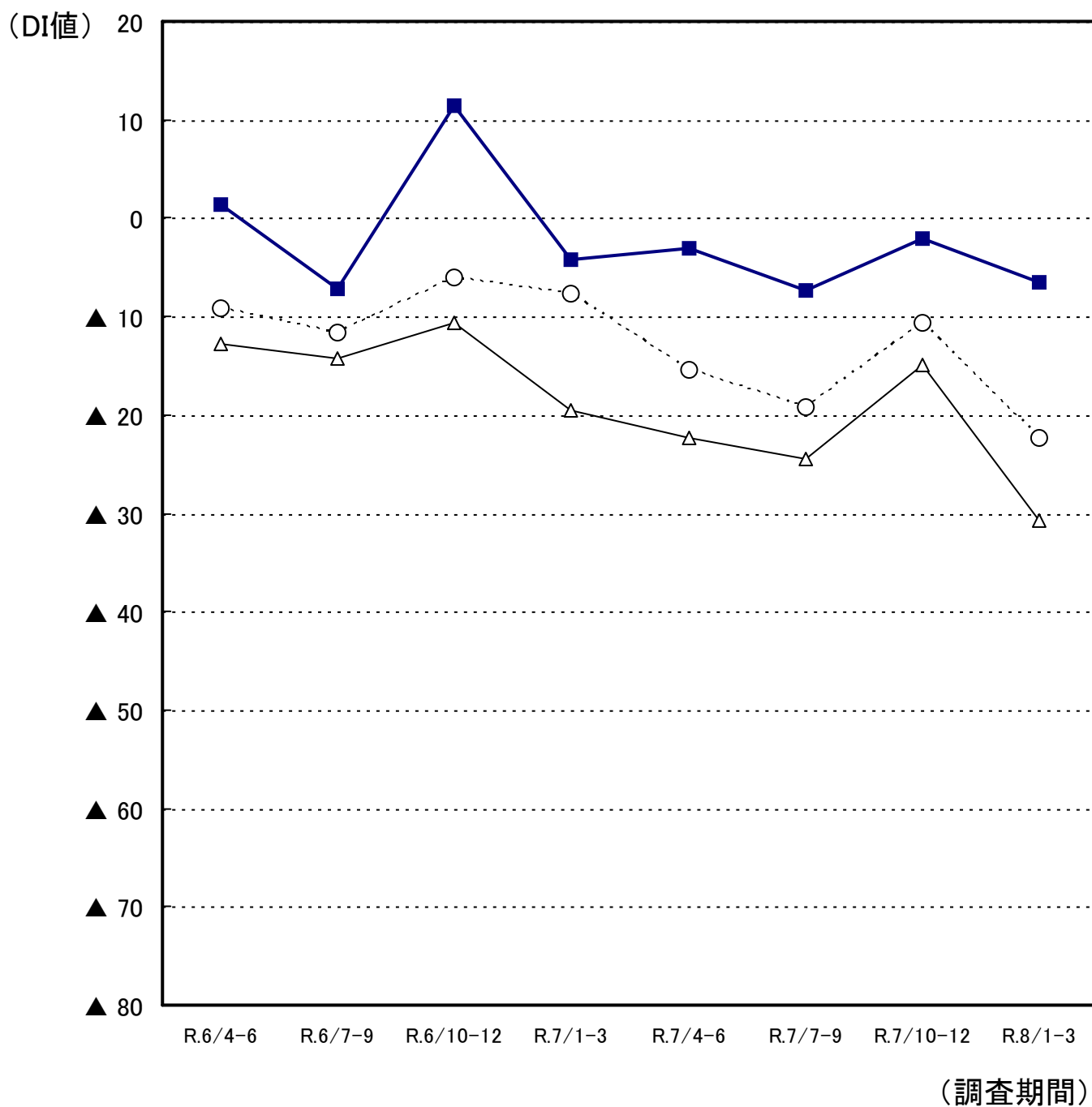
『旅館・ホテル』・・・「スポーツは、ワールドカップや WBC などの世界的イベントにより好転するだろう」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「イベントに触発された方々の施設利用が増える等、活発化の波にしっかりと乗りたいところである」とのコメントが寄せられた。

『その他』・・・「富士まつりは、今後どうなるのだろうか」「新富士駅南側でサーカスが開催されている関係で、土日に多くの子連れの方を見るようになった」「いよいよ富士駅北口の解体工事が始まった。予定通りの完成を希望する。それまでは踏ん張って、がんばりたいと思う」「沼津線の清水銀行近くにドラッグストアが進出予定である」「富士市はそこまで経済環境は悪い地域だとは思わないが、介護事業等は人材不足や人件費高騰で業況悪化している」「公示価格は地域格差を見るバロメーターの一つであり、地価が上がらない地域の元気の無さが気になる」とのコメントが寄せられた。

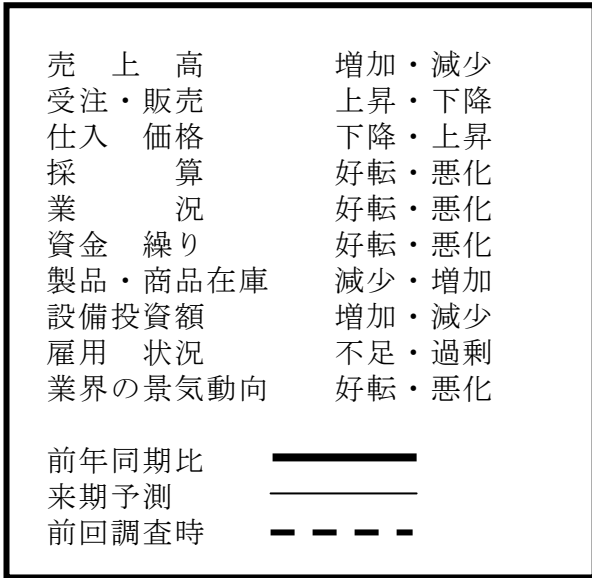
	好転%	不変%	悪化%	今期 D I	来期予測
業 況	12.5	58.3	29.2	▲16.7	横ばい
売上高	33.3	50.0	16.7	16.6	下 降
採 算	20.8	45.8	33.3	▲12.5	下 降

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

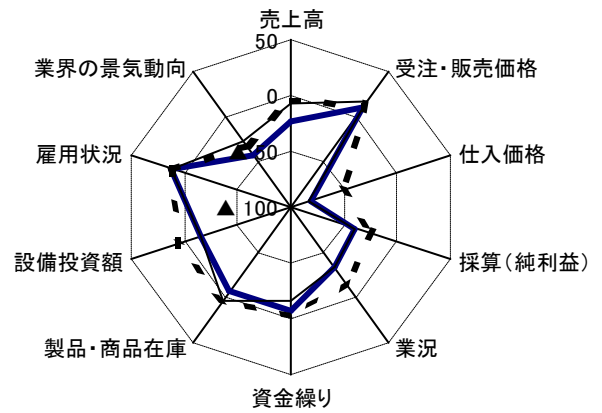
■ 売上 ○ 業況 ▲ 採算



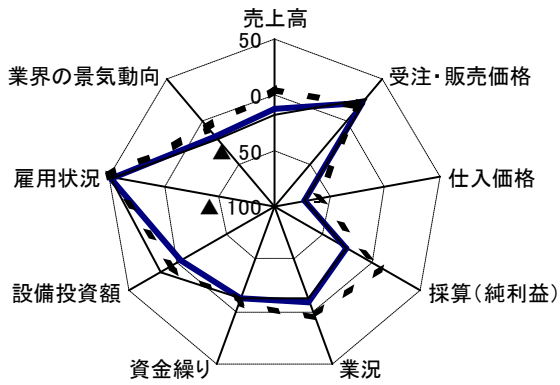
レーダーチャート



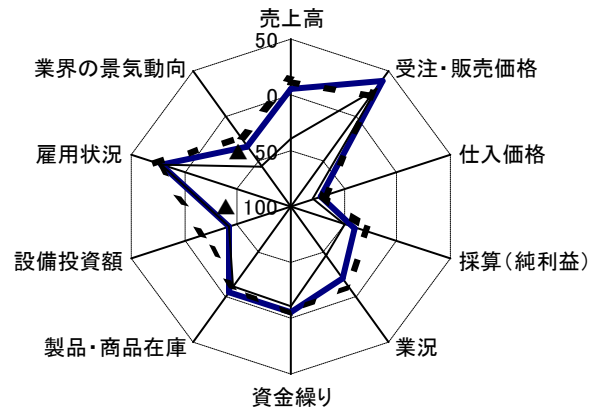
【製造業】



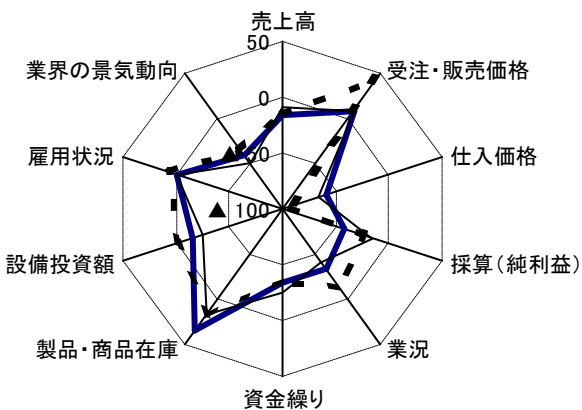
【建設業】



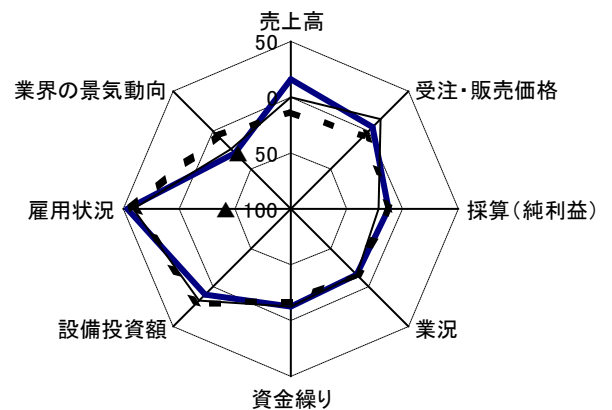
【卸売業】



【小売業】



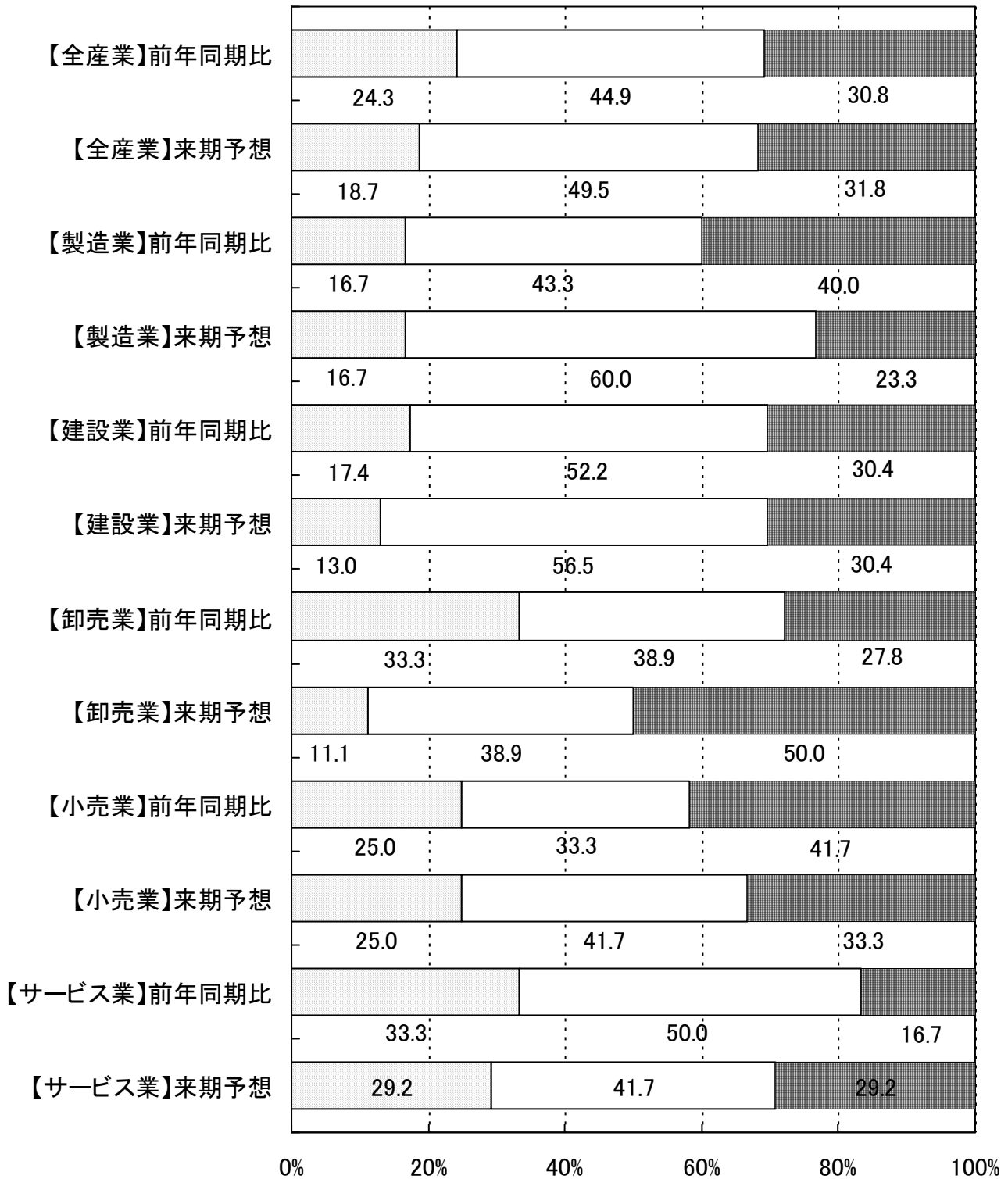
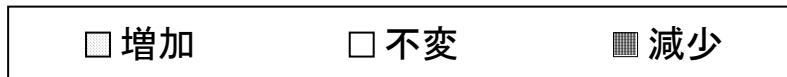
【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 設備老朽化</p> <p>その他 販売価格値上げ難</p>
建設業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人件費高騰</p> <p>3 位 人材不足</p> <p>その他 販売価格値上げ難／設備老朽化</p>
卸売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人件費高騰</p> <p>3 位 過当競争／販売価格値上げ難／その他の需要の低迷／設備老朽化</p> <p>その他 売上、利益減による資金圧迫／人員不足</p>
小売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 その他の需要の低迷／手狭な店舗、工場、倉庫等</p> <p>その他 その他の経費増大</p>
サービス業	<p>1 位 人件費高騰</p> <p>2 位 人材不足／設備老朽化</p> <p>3 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>その他 人員不足</p>

売上高の前年同期比と来期予測



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2026年3月13日）

日本銀行静岡支店

（経済面）県内の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。最終需要の動向をみると、公共投資は高水準で推移している。設備投資は増加している。個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、底堅く推移している。輸出は持ち直している。住宅投資は減少している。こうしたもとで、企業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を上回っている。貸出は、前年を上回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース、地銀・第二地銀）は、前月比上昇している。企業倒産（負債総額10百万円以上）は、概ね感染症拡大前の水準となっている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 物価上昇などの影響がみられるものの、底堅く推移している。

百貨店・スーパー売上高は底堅く推移している。コンビニエンスストア販売額は底堅く推移している。ドラッグストア販売額は増加している。家電販売額は緩やかに回復している。新車登録台数・販売台数は持ち直しが一服している。旅館・ホテルの宿泊数は横ばい圏内の動きとなっている。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（公共工事請負金額前年比：26/1月▲30.2%→26/2月▲35.1%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 増加している。

（短観・設備投資額：24年度計画7.2%→25度計画24.2%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 減少している。

（新設住宅着工戸数前年比：25/12月39.1%→26/1月▲34.0%）

（5）輸出（前回からの変化） → 持ち直している。

（輸出額前年比：25/12月6.0%→26/1月24.8%〈速報値〉）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 横ばい圏内の動きとなっている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：25/11月▲2.1%→12月▲3.7%<速報値>)

自動車・同部品、化学は横ばい圏内の動きとなっており、二輪車・同部品は回復している。食料品は弱めの動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は弱めの動きとなっている。化学は横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は回復している。紙・パルプは弱めの動きとなっている。楽器は弱めの動きとなっている。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 緩やかに改善している。

(有効求人倍率 季節調整値：25/12月1.09倍→26/1月1.06倍)

(3) 物価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比25/12月2.7%→26/1月2.5%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 概ね感染症拡大前の水準となっている。

(26/2月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(17件<前年比：▲5.5%>)
負債総額(18億円<同：▲22.6%>)

(2) 預金 前年を上回っている。(前年比：25/12月末+0.6%→26/1月末+1.3%)

(3) 貸出 前年を上回っている。(前年比：25/12月末1.9%→26/1月末2.4%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比上昇している。

(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース水準：25/12月1.567%→26/1月1.585%)

以 上